



アニソンが大好きで1人カラオケにもよく行く、でも歌に自信はない…。どうしたらうまく歌えるようになる？
宮城貴哉さん(28)が山野楽器の音楽教室ヤマノミュージックサロン新宿店で3回(各30分)の集中レッスンに挑戦!

Lesson 1

初回は正しい姿勢と息の使い方に終始。足を肩幅に開いて、お腹を突き出さず、重心は前の方に。息を吐ききって、お腹に吸い込む。そして、お腹からゆっくり均等に吐き出す。まずは腹式呼吸の基本が大事で、そこに声をのせていきます。「あああああああ〜(ドレミファソファミレド)」



Lesson 2

腹式呼吸のおさらいと、発声練習。お腹からの大きな声が出て、少しずつ音域も広がってきます。そして、アニソンの王道「残酷な天使のテーゼ」に挑戦。早速1フレーズ目からダメ出しが。「『ごんこく』の『ご』はもっとざらついた感じで。『わたし』も聞こえづらいので『うわたし』など、発音に気をつけることで、全然聞こえ方が違ってきます。長いフレーズは、特にお腹から息を吐いて〜。しっかりと声が出て来るようになりました!



Lesson 3

まずは基本の呼吸と発声練習。正しい姿勢のキープもまだまだ難しく、レッスン後は足がつるようです。「残酷な天使のテーゼ」は、発音とお腹の使い方に細かい指導を受けながらも、通して歌えるようになりました。集中レッスンを終えた宮城さんの感想は?「毎回レッスン後は、軽い運動をしたような感じ。お腹からの発声で喉の調子がよくなって驚いた。カラオケでも今まで声が出なかった曲も歌えるようになりました!」稲垣先生、ありがとうございました。



日本語を歌・唄・謡う

文：中山一郎(元大阪芸術大学教授)

前々から「日本語をうたう」ということについて疑問を感じてきた。例えば、ソプラノ(いわゆる、洋楽)に接しても、「これが日本語なのだろうか…!?’。一方、古来、「日本語をうたう」ことを営々と培ってきた伝統芸能(いわゆる、邦楽)の世界でも、「何と洋楽的な…!?’、等々。前者の違和感の根底には、「洋楽的唱法」という異文化を全く無批判に直輸入してしまった、明治初期の「洋楽受容期」以来のこの国の誠に歪な音楽教育の歴史があると思われるし、また後者には、コトバと同様に、音曲も時代と共に変化せざるを得ないが故の、「伝統」というものとのジレンマがあるものと思われる。

ならば、日本語をどのように「うたう」のか…? この疑問を解くためには、現在、日本語がどのように「歌・唄・謡」われているかを知ることが先決、と考えるようになった。が、世の中には邦・洋楽を問わず多数のCDやDVDなどが存在するが、それらは演目(即ち、歌詞)が各々異なるが故に、

この疑問を解く鍵にはなり得なかった。そこで、同じコトバ(共通詞)／かえていくづくやまのあさは／を留意し、日本の「声の音楽」の殆ど全ての歌唱分野(32分野)の79名(うち、人間国宝16名)に、各分野の典型的な歌唱表現法でこの共通詞を「うたい分け」して貰った。収録には6年を要したが、こうして一般公開したのがDVD全集『日本語を歌・唄・謡う』である。歌詞が同一であるが故に、各々の歌唱表現法の間・異が一目瞭然に把握していただけるものと自負している。

全600チャプタに及ぶこのDVD全集が「声のテキスト」として次世代に受け継がれれば、と願っている。



HPで狂言・茂山千作師のいろんな／かえていくづく…／を、ぜひ聴きくらべてみてください!
<http://www.adpopolo.com/jvoicesdvd/>

PROFILE 1940年金沢市生まれ。工学博士。専攻は音楽音響学・映像民俗学。DVD全集『日本語を歌・唄・謡う』(2008年アド・ポポロ発行)で平成23年度日本音響学会功績賞受賞。

ワンポイントアドバイス by 稲垣準子先生

- ♪ 何事も土台が大事。発声ができると、そこに音をのせていきます。
- ♪ 音域も発声練習で広がっていくもの。身体が委縮すると出なくなるので、下あごを開いて口をあけること、お腹の使い方がポイント。
- ♪ 速い曲は歌詞をゆっくり読んでから。歌舞伎の「外郎売」も滑舌をよくするのに最適です。
- ♪ 気持ちよく歌うとそれが伝わるもの。原曲を聞きすぎると癖ももらってしまうので、自分にあった歌い方をものにしましょう!

*ヴォーカルレッスンのお問合せはヤマノミュージックサロン新宿(Tel: 03-5909-2137)まで

身近な「うたう」

総務省の「社会生活基本調査」(2011年)によると、カラオケ人口はおよそ3,307万人、実に4人に1人がカラオケに足を運んでいる。一方、合唱や声楽を行うのは318万人と10分の1。だが、年間の平均日数はカラオケ13.2日に対し、合唱や声楽は55.1日、週に1回以上定期的に練習する割合だ。それぞれの楽しみ方はいかに?

KARAOKE

カラオケ



「宴」という言葉は、「歌と酒」の意味であるという説もあるくらい、日本人にとって、歌と宴会は切っても切れない関係。唄や小唄、さらには演歌を、三味線や流しのギターをバックに歌っていた盛り場文化は、70年代以降カラオケが一挙に浸透する土台となったのだろう。そして貨物用コンテナボックスを改造したカラオケボックスが、岡山県で誕生した85年以降、カラオケは酒場に限らない、子供からお年寄りまで誰でも手軽に歌を楽しめるレジャーになった。

カラオケは楽しいだけでなく、健康にもいい。(株)第一興商が、自社カラオケシステムを用いて60歳以上の男女44名に3曲歌唱してもらい、その前後に唾液検査、唾液採取、アンケート調査を行ったところ、歌好き・歌嫌いにかかわらず、歌うことで唾液量が増え、ストレスホルモンが減少、前向きな気分になり、気分・感情が改善されたそう(出典:日本レコード協会機関誌『The Record』vol.659)。

このようなカラオケの効果に着目し、国連の友Asia-Pacificでは、東日本大震災被災地の仮設住居を、カラオケカー帯同で巡回診療するプログラムを進めている。カラオケを歌うことで住民同士のコミュニティづくりやストレス発散に役立っているという。歌うことが健康や長生きにつながるなんて、歌好きの日本人にはたまらない話ではないか。

写真提供:(株)第一興商

CHORUS

合唱



歌は身体が楽器。大勢のできる音楽として、小中高生時代にはクラスで合唱した経験も多いのでは?そして、部活が盛んな学校では、毎年コンクールに挑戦することもあるだろう。昭和7年から81回を数えるNHK主催の合唱コンクール「Nコン」は、小学校、中学校、高等学校の部門で現在は合計約2,600校が参加する。各ブロックとシード枠の11組で開催される全国コンクールのぞいてみると、みんな少し緊張しながらも懸命に歌っていた。

全日本合唱コンクールを主催する全日本合唱連盟に加盟するのは、全国で5,155団体。中学・高校はそれぞれ約800団体だが、一般は約3,000団体。社会人になってからも合唱を楽しんでいる人がとても多いのを見て取れる。

社会人の合唱団体では、「この場があることが奇跡」と感謝する思いも。2013年の全日本合唱コンクールで金賞(一般部門)となったお江戸コラリアーズは、毎週末4時間ほど練習を組んでいる。ただ、約80名で本番に臨む予定でも、練習に毎回全員が揃うことはなかなか難しい。発足から15年、指揮者もメンバーもみんな仕事を持ちながら参加し、金賞を取るまでになったのは、練習時に誰もが音楽面でも意見や提案を言えるフラットな関係と、練習後の飲み会。学生時代に合唱部にいたメンバーがほとんどで、「合唱を続けたい」という思いを持つ仲間と「好きな音楽がやれる」のが魅力のようだ。